

一夕  
日刊  
**支那時報**

豫てから噂に上つてゐた縣下警察官の異動は愈々今一日午前十時發表された。先づ平署長警部樺村慶氏は郡山署へと大築轉、剛放磊落を以て稱されてゐた同氏も數日來進退に就ては少なからず氣を揉んでゐたためか、いざ郡山と聞いて流石に嬉しさを隠し切れず。桑折の間違ひではないかと縣に聞き直す騒ぎ、そのうち各方面から「祝築轉」の電報が舞ひ込むので安堵の胸を撫でれろし、書類決裁り捺印の音さへ威勢が好い。御感想はと聞くと辭令も來ないうち困らねと多くを語らない。同氏は大正十三年十二月伊藤署長の後を受けて平署長拜命以來二年八ヶ月その間大事件としては石城空前で恐らく本縣最初の大労働争議二件あり、殺人事件等も何れも氏の鮮やかな手腕により犯人を逮捕し爭議も大過なく片附けた功など今回築轉理由の一つに數々ある、点であらう。平署長後任は現中村署長磐部猪狩清氏、氏は嘗て平署に次席を勤めてゐた事あり平地方の事情は知悉してゐるから相當手腕を發揮し得

保安課長警部	酒田喜一郎
命警務課長	
高等課長同	
命保安課長	
白河署長同	小林周
命高等課長	平山不二彦
命平署長同	樺村
命郡山署長同	猪狩清
中村署長同	
命平署長	
郡山署長同	荒井市太郎
命須賀川署長	
高田署長同	目黒徳保
命中村署長	
植田署長同	横山宗延
命飯坂署長	
三春署長同	後藤清壹
命植田署長	
平署管部補	近藤千歌
命保原署長	
高等課警部補	中村鐵夫
任警部命高等課次席	
命警察部	柴田鶴作
命警務課次席	
福島署同	青木壽
命浪江署長	
衛生課次席	菅澤鐵五郎
命福島署次席	
富岡署長警部	大久保富也
命棚倉署長	
棚倉署長同	山崎
秋	

# 自動車に客を一空同然の鐵道省

この外日下浪人中の佐藤久俊は白河署長、新潟縣の巡査長阿部文雄氏は警部となつて春署長に夫々引あげられた。

三 氏 部 内院を約四十二分で一周した  
同氏の竹馬踏破は吉田警察署  
一合目より各合目毎に證明證  
與へ頂上一周は宮主が證明し  
るが、断崖又断崖の富士山  
竹馬で登つたといふ事は全國  
記録として一般を驚かしめた  
尚ほ同氏の踏破は五合目附近  
同所測候所研究のため登山中  
山階宮藤麿王殿下の御目に留  
つたといふ。

▲職工賃銀値下 平野  
いづやの  
四倉海岸死体未  
平町白銀町三番地いづや雜貨室  
賣子柳沼富一(二二八)は去月三十日午後一時頃四倉海岸で水泳主に激浪に浚はれ行衛不明になつたので大騒ぎとなり四倉町青年團消防組員等網出で捜索したが同店の織田氏の営業手腕に驚いてゐるといふ。インデアンオーバイの外、スバルタ、ラードベリー各自轉車の販賣を行つてゐるが殊に同店の十五ヶ月賦販賣(一ヶ月の掛金十圓七圓、六圓)が好評を博して以上の如く卓越した發展ぶりを示してゐるので他の同業

賣子で溺死だに發見されず

商賈繁昌記

平町南町鐵田自轉車庄

内院を約四十二分で一周した。同氏の竹馬踏破は吉田警察署へ項上一周は宮主が證明しゐるが、断崖又断崖の富士山尚は同氏の踏破は五合目附近同所測候所研究のため登山中山階宮藤麿王殿下の御目に留つたといふ。

▲職工賃銀値下 平野  
いづやの 四倉海岸死体未  
糸織田自轉車店

糸織田自轉車店の死体未発見事件について、平野が四倉海岸で死体を発見したと報じた。糸織田は古物販賣業者で、自転車販賣も行っていた。事件の詳細は以下の通り。

糸織田白銀町三番地いづや雜貨店の賣子柳沼富一(二二八)は去月三日午後一時頃四倉海岸で水泳中の激浪に没され行衛不明になつたので大騒ぎとなり四倉町青年團消防組員等網出で捜索したが未だ未発見である。

賣子で溺死だに發見されず

庫の花澤君

破  
着上

景氣に仕事がなくなり特殊な人持以外は其の日の生活にもまる状態となつたが最近漸やく見る一致を見て左官、薦職及

